

授業科目名 / Course Name : 言語学概論 — 「音」「形」「意味」からことばを見る—

開講学期 / Semester : 春・夏

開講時限 / Day & Period : 金曜 4 限

単位数 / Credit : 2

年次 / Student Year : 1, 2, 3, 4 年次

開講言語 / Language of the Course : 日本語

授業形態 / Type of Class : 講義

担当教員名 / Instructor : 田尾 俊輔

オフィスアワー / Office Hour : 金曜 3 限

メールアドレス / E-mail :

授業の目的と概要 / Course Objective :

- 私たちが普段使用している「ことば」には「音」、「形」、「意味」の側面があることを踏まえて、日常生活にありふれた言語現象を観察して分析することができるようになる。加えて、私たちの身の回りにある「ことば」の不思議な現象を見出すことができるようになることも目指す。

キーワード / Keywords :

- 言語学 Linguistics 音声学 Phonetics 音韻論 Phonology 形態論 Morphology
 統語論 Syntax 意味論 Semantics 語用論 Pragmatics

学習（到達）目標 / Learning Goals :

- ①母音と子音の特徴について、それぞれ4つ、3つの要素から説明することができる。
 ②英語と日本語の音節の違いについて、含まれる子音と母音の数から説明することができる。
 ③とある語を見て、その語がどのように形成されているのかを説明することができる。
 ④簡単な句構造規則を用いて、文の階層性を表現することができる。
 ⑤従来の意味論と認知意味論の違いを簡潔に説明することができる。
 ⑥文脈によって語の文字通りの意味が異なってくる事例を挙げるすることができる。
 ⑦授業で学んだことをわかりやすく要約することができる。
 ⑧授業で学んだことをもとに、質問することができる。

成績評価 / Grading Policy :

- (1) 第14回に実施する「期末テスト」: 50% (上記の学習目標の①②③④⑤⑥に対応します.)
 (2) 毎授業提出する「ミニツッペーパー」: 50% (上記の学習目標の⑦⑧に対応します.)

教科書 / Textbook(s) :

- 西原哲雄 (編) (2012) 『言語学入門』(朝倉日英対照言語学シリーズ1), 朝倉書店, 2,600円+税.
- 適宜, プリント等を配布し, スライドも使用します.

参考文献 / Reference(s) :

- 影山太郎・Brent de Chene・日比谷潤子・Donna Tatsuki (2004) 『First Steps in English Linguistics—英語言語学の第一歩— 2nd Edition』, くろしお出版, 1,600円.
 ⇨言語学の概要を掴めるとともに, 英語の読解の練習にもなる. CD付き. 英語史や語用論, 社会言語学, 心理言語学, 応用言語学の章もあり, 本授業で扱う内容以外も勉強できる.
- 三原健一・高見健一 (編) (2013) 『日英対照 英語学の基礎』, くろしお出版, 1,800円+税.
 ⇨少し詳しい解説が書かれている. 練習問題もあり, 考えるきっかけを与えてくれる. Further Readingの頁も充実している.

- 西光義弘（編）（1999）『日英語対照による英語学概論 増補版』，くろしお出版，2,500 円＋税。
⇨かなり詳しい解説が書かれている。上記 2 冊を読破した後に取り組むとよい。
- 谷口一美（2006）『学びのエクササイズ 認知言語学』，ひつじ書房，1,200 円＋税。
⇨認知言語学の基礎内容をかなり平易に説明している。認知言語学を学ぶ際の入門書に位置づけられる。
- 河上誓作（編）（1996）『認知言語学の基礎』，研究社，2,700 円＋税。
⇨上記の『学びのエクササイズ 認知言語学』を読破した後に読むとよい。より詳しい内容を扱っている。基本概念をまとめた用語集が巻末にあり，便利である。

授業担当教員からのメッセージ / Instructor's Message :

自分の身の回りをよく観察すると，思わぬ発見をすることがしばしばあります。その時の知的興奮というのは，学問をする上においてとても大切です。この授業を通してそれを実感してもらい，みなさんの今後の勉強・研究につなげることができたらと思います。一緒に楽しく学んでいきましょう。

その他 / Others :

- 指示されたとき以外の携帯電話，スマホ，インターネットの使用は厳禁です。
- 特別の配慮を要する場合には，事前に教務係に相談するとともに，初回授業等，早期に授業担当教員に申し出てください。

授業計画 / Class Plan :

適宜, 以下の表を参照するようにして下さい. 毎授業開始前までに、「前回の授業分の事後学習(復習)」と「当日の授業分の事前学習(予習)」に取り組んで下さい.

また, 毎授業の最後に, その回で学んだことや他のことばに当てはめて考えてみたこと, 疑問に思ったことなどをミニツッペーパーにまとめて提出することになりますが, 書き込んだ内容をスマホ等で写真を撮って保存しておくことで復習時に役立つでしょう.

授業回 (授業日)	授業内容	事前学習(予習)	事後学習(復習)
1 (xx/xx)	<p>【イントロダクション: 言語学とは何か】</p> <p>本シラバスを使用しながら, 「言語学」という学問が担う領域を確認して, 言語学全体を概観します. 注意深く観察すると, 私たちの日常生活にはことばの不思議な現象がたくさん潜んでいることがわかります.</p>	●シラバスの内容を確認する.	●特になし.
2 (xx/xx)	<p>【音声学: 子音と母音】</p> <p>英語と日本語の子音と母音について学びます. 人間が音を発する仕組みを図で理解します. 「調音点」「調音法」「有声/無声」「舌の位置」「舌の高さ」「円唇」「はり」などの用語をおさえましょう. その仕組みを理解した上で, 実際に各自で発音練習もしてみます.</p>	●教科書第1章 pp. 9-38を読む.	●教科書の内容を読み返す. ●Web上の課題に取り組み, 第3回授業の前日までに提出する.
3 (xx/xx)	<p>【音韻論(1): 音素と異音, 音韻過程】</p> <p>「音素」と「異音」の違いを理解して, 「音声学」と「音韻論」の領域間の違いを捉えます. 実際に音を聞いて確認する作業も行ないます.</p>	●教科書第1章 pp. 9-38を読む.	●教科書の内容を読み返す. ●Web上の課題に取り組み, 第4回授業の前日までに提出する.
4 (xx/xx)	<p>【音韻論(2): 音節, アクセント】</p> <p>英語と日本語の音節・アクセントの違いを理解します. 両言語の音節・アクセントについては相違点が結構あります. これを学べば, 日本人が英語の歌を歌いにくい理由も説明できるようになります.</p>	●教科書第1章 pp. 9-38を読む.	●教科書の内容を読み返す. ●Web上の課題に取り組み, 第5回授業の前日までに提出する.
5 (xx/xx)	<p>【形態論(1): 形態素, 派生と複合】</p> <p>この回からは, 1つの語がどのように形成されているかについて学びます. 「派生」と「複合」では, 結びつくものが異なるということがポイントとなります.</p>	●教科書第2章 pp. 39-63を読む.	●教科書の内容を読み返す. ●Web上の課題に取り組み, 第6回授業の前日までに提出する.
6 (xx/xx)	<p>【形態論(2): 短縮, 混成, 異分析, 転換】</p> <p>第5回の続きです. 「派生」と「複合」以外に, 「短縮」「混成」「異分析」「転換」という方法で語が形成されていくことを学びます.</p>	●教科書第2章 pp. 39-63を読む.	●教科書の内容を読み返す. ●Web上の課題に取り組み, 第7回授業の前日までに提出する.

<p>7 (xx/xx)</p>	<p>【統語論(1)：構成素，階層性】 この回からは，語どうしがどのように結びついていくのかについて学びます。まずは，音素と形態素を思い出しながら，構成素とは何かをつかみます。構成素の構造を理解した後に，文レベルで階層性が存在することを確認します。</p>	<p>●教科書第3章 pp. 64-93 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第8回授業の前日までに提出する。</p>
<p>8 (xx/xx)</p>	<p>【統語論(2)：句構造規則】 V, N, A, P などの記号や樹形図を利用して，文の構造を分析します。第7回の授業の応用に位置づけられます。</p>	<p>●教科書第3章 pp. 64-93 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第9回授業の前日までに提出する。</p>
<p>9 (xx/xx)</p>	<p>【統語論(3)：樹形図（補文，補部と付加部）】 樹形図をさらに深めるために，「補文」と「補部」「付加部」について取り上げます。第7回～第9回を通して，基本的な文構造の分析方法が身につきます。</p>	<p>●教科書第3章 pp. 64-93 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第10回授業の前日までに提出する。</p>
<p>10 (xx/xx)</p>	<p>【意味論(1)：同義性，同音異義，多義性】 この回からは，意味について学びます。「同義性」「同音異義」「多義」の区別はしばしば議論になるところです。この授業では，まず簡単な例を取り上げ，複数の立場を考慮しながら，3者間の区別が難しいという問題に迫っていきます。</p>	<p>●教科書第4章 pp. 94-121 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第11回授業の前日までに提出する。</p>
<p>11 (xx/xx)</p>	<p>【意味論(2)：反義性，含意】 「反義」と聞くとシンプルに反対の意味と考えるでしょうが，実は「反義性」にはいくつかの種類があります。この授業ではそれらの違いを学びます。また，「含意」についても取り上げます。</p>	<p>●教科書第4章 pp. 94-121 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第12回授業の前日までに提出する。</p>
<p>12 (xx/xx)</p>	<p>【意味論(3)：認知意味論（フレーム，メタファー）】 言語学の中には，「認知言語学」という領域があります。まずは「認知」と「言語」がどのように関わっているのかを捉え，基本的な概念（「フレーム frame」，「メタファー metaphor」，「メトニミー metonymy」）を理解します。普段使うことばに，この概念が含まれていることを確認します。</p>	<p>●教科書第4章 pp. 94-121 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第13回授業の前日までに提出する。</p>
<p>13 (xx/xx)</p>	<p>【語用論：文字通りの意味とは異なる意味】 意味論で扱う「意味」は文脈から独立したものですが，文脈が絡むと必ずしも文字通りの意味にはならない場合があります。第13回では，そのような表現とその仕組みを対象とする語用論を概観します。</p>	<p>●教科書第5章 pp. 122-146 を読む。</p>	<p>●教科書の内容を読み返す。 ●Web 上の課題に取り組み，第14回授業の前日までに提出する。</p>

<p>14 (xx/xx)</p>	<p>【第1回～第13回の振り返り】 第1回～第13回を簡単に振り返った後、テストに取り組めます。「穴埋め問題」「用語の説明問題」「知識を用いて言語現象を説明する問題」があります。</p>	<p>●配布資料の内容、教科書の該当箇所の内容を中心に復習する。</p>	<p>●特になし。</p>
<p>15 (xx/xx)</p>	<p>【まとめ】 第14回で行ったテストを返却して解説をすることで、この授業のまとめを行います。</p>	<p>●配布資料の内容、教科書の該当箇所の内容を中心に復習する。</p>	<p>●テストを見直す。</p>

※ 本授業全体のイメージ図

※丸数字は授業回を示しています。

